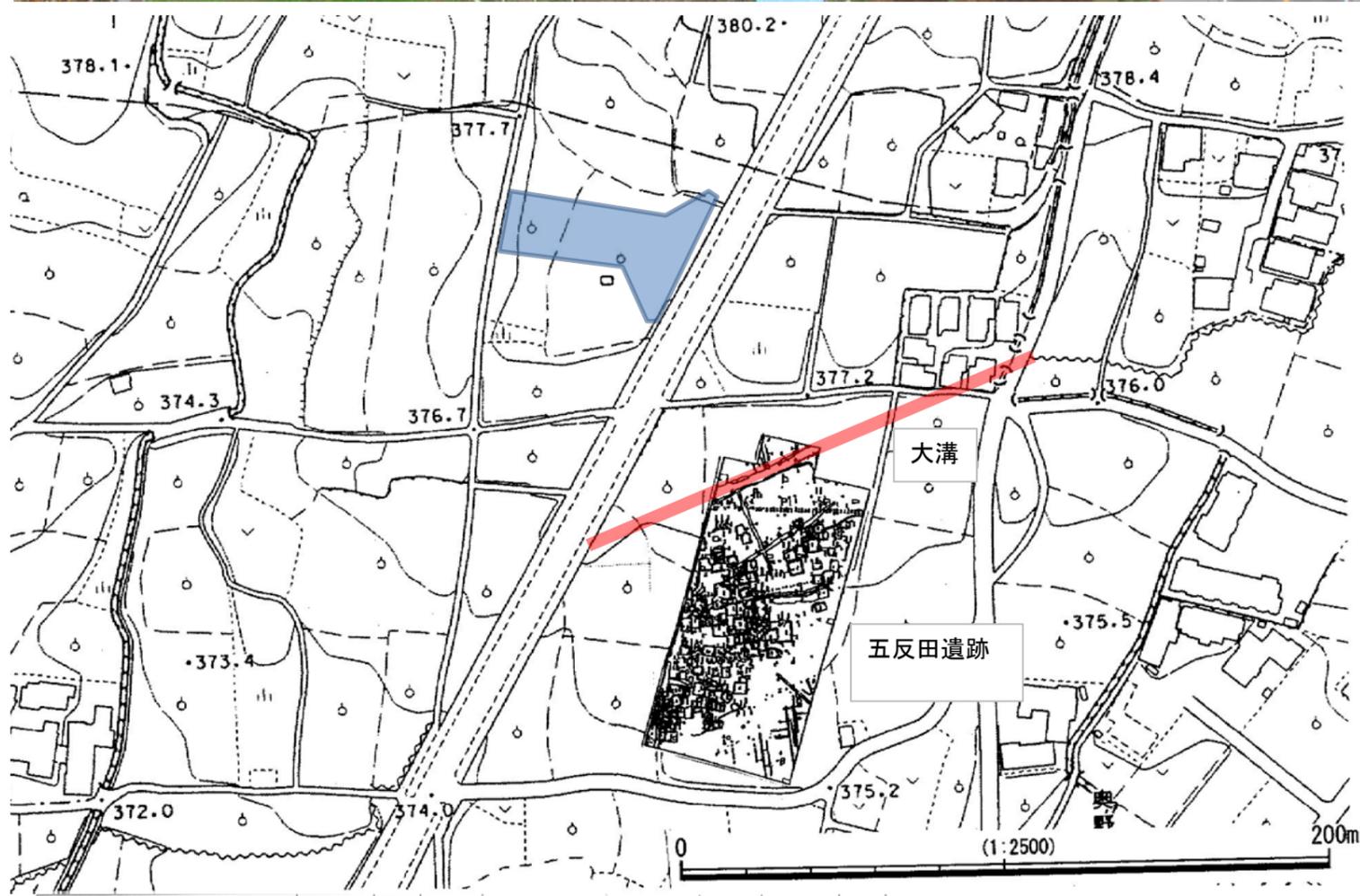




(上) 重なり合う竪穴住居

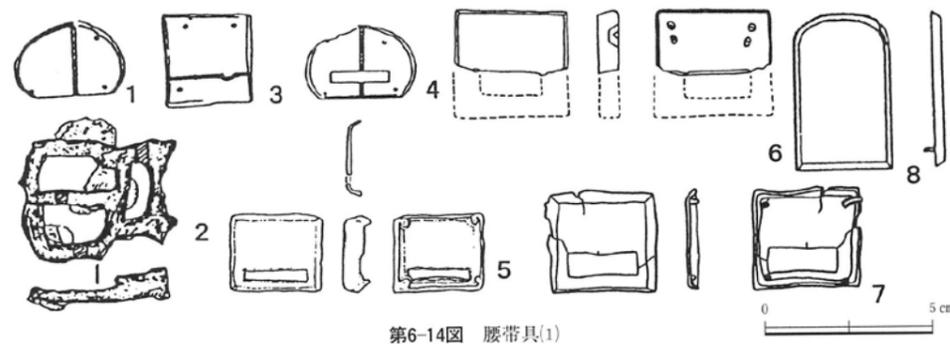


石組で作られた
竈と支脚石(右)

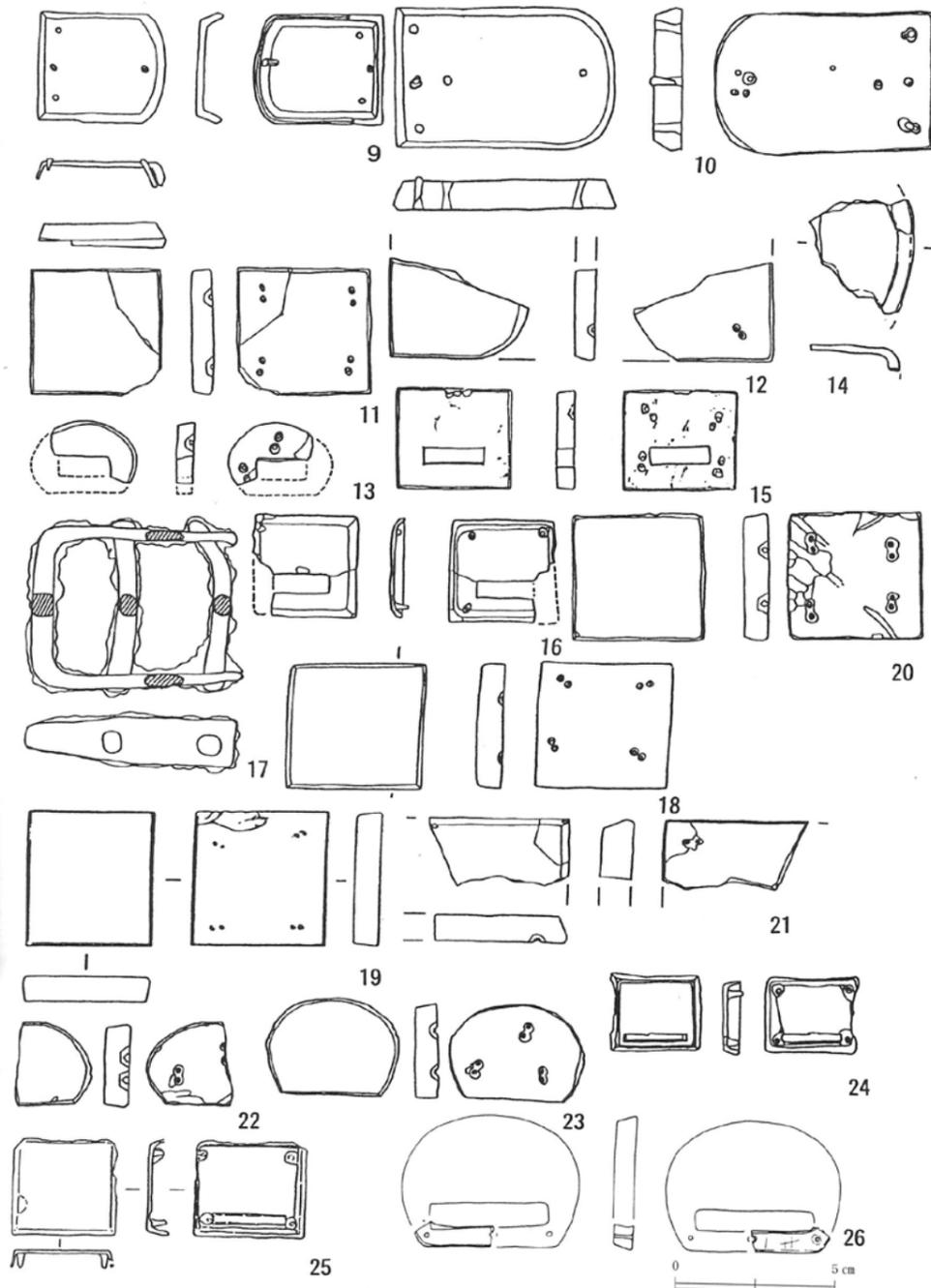


16号竪穴の南西隅に見つかった合わせ皿の2組の容器(中に何が入れているのか未確認)

No.	市町村	遺跡名	遺構名	材質	形態	サイズ(幅×長×厚)	穿孔(幅×長)	時期	備考	図No.
1	甲府市	朝気		石	巡方		無			
2	富士吉田市	古屋敷		銅	丸鞘		不明			
3	山梨市	日下部	1住	銅	丸鞘裏	2.3 3.3 0.1	無			1
4	〃	日下部	2住	銅	巡方裏	2.5 2.5 0.1	無	X~Ⅱ		2
5	〃	日下部	2住	鉄	鉸具	4.3 3.7		X~Ⅱ		3
6	〃	日下部	16住	銅	丸鞘裏	2.3 3.2 0.1	有0.4 1.8	X		4
7	韭崎市	宮ノ前	287住	銅	鉸尾	? ? 0.8		Ⅱ		14
8	〃	宮ノ前	同	石	巡方	3.2 3.6 0.8	有0.5 2.0			15
9	御坂町	姥塚	16住	銅	巡方裏		有			
10	〃	横畑		石	丸鞘		有			26
11	一宮町	四ツ塚	4号墳	銅	鉸尾	1.3 1.0 0.2				
12	〃	〃	12号墳	銅	鉸尾	1.2 1.4 0.4				
13	〃	〃	12号墳	銅	鉸尾	1.3 1.5 0.4				
14	〃	釈迦堂(野呂)		銅	巡方	2.4 2.7 0.6	有0.4 2.0	Ⅸ		5
15	〃	竜ノ木	1住	石	巡方	? 3.3 0.5	有? 1.8	Ⅱ		6
16	〃	甲斐国分尼寺遺跡	3-17住	銅	巡方	3.0 3.2 0.4	有0.7 2.1			7
17	〃	横畑(勝沼313)	3住	金属	鉸尾	2.9 4.8 0.4		X		8
18	〃	大原		銅	鉸尾	3.4 4.1 0.7			金装	9
19	〃	〃	W30住	石	鉸尾	4.5 6.9 1.0				10
20	〃	〃	21住	石	巡方	4.0 4.1 0.7	無			11
21	〃	〃	グリッド	石	巡方	4.3 4.3 0.6	無			12
22	〃	〃	E59住	石	丸鞘	? ? 0.6	有0.7 1.6			13
23	〃	両の木神社								
24	〃	車居								
25	若草町	新居道下		石	丸鞘					
26	高根町	東久保	20住	石	巡方	4.3 4.1 0.8	無	Ⅱ		19
27	〃	湯沢	20住	銅	巡方					
28	長坂町	柳坪B	17住	銅	巡方	3.3 3.3 0.4	有0.6 1.9	X		16
29	〃	柳坪	19住	鉄	鉸具	5.3 6.9		Ⅱ		17
30	〃	〃	21住	石	巡方	4.1 4.4 0.9	無	Ⅱ		18
31	大泉村	城下	8住	石	巡方	4.1 4.0 0.7	無			20
32	〃	〃	グリッド	石	巡方	4.4 4.4 1.0	無			21
33	〃	〃	グリッド	石	丸鞘	2.7 0.8	無			22
34	〃	原田	4住	石	丸鞘	3.1 4.2 0.7	無			23
35	〃	中村	5住	銅	巡方	2.4 2.8 0.5	有0.2 2.0		表面に漆	24
36	武川村	宮間田	78住	銅	巡方	3.0 3.5 0.8	無		裏に溝	25



第6-14図 腰帯具(1)



第6-15図 腰帯具(2)

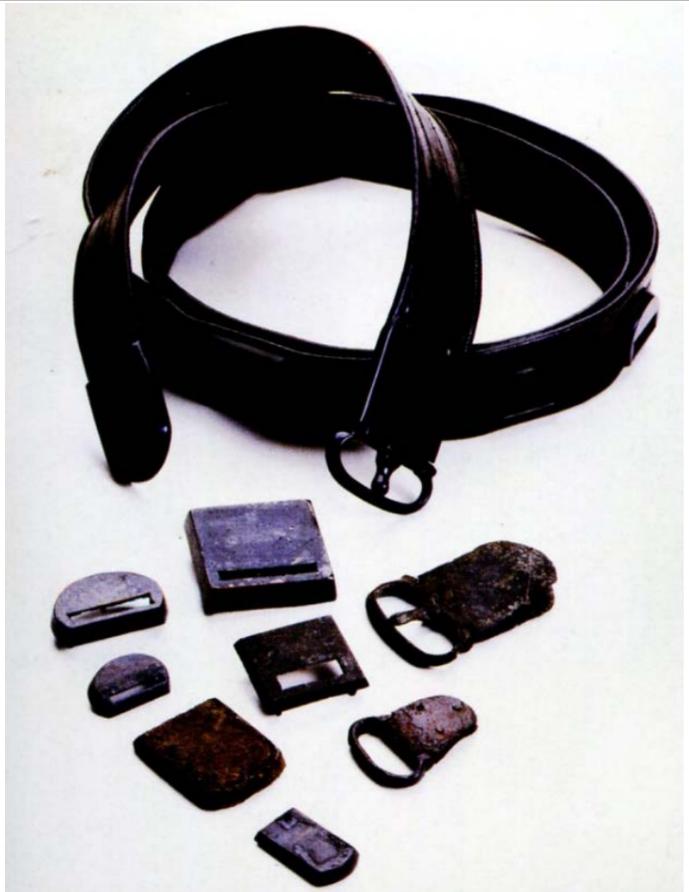
◆平安京左京八条三坊七町
平安京左京六条三坊八町

奈良時代の帯飾りは主に金属(主に銅)が主体であったのに対し、長岡京では石製が出土資料の約八割を占めるようになります。平安時代になるとその傾向はさらに促進され、石材の種類や色調も多様化し、少数ではありますが

板状材
石材を適度な厚みに切り出しています。こののち板状材を石挽き鋸で個々の素材に成形していきます。

半製品
周辺を成形、調整してほぼ製品の形にした後、粗く研磨しています。丸鞘・巡方は腰回りに、鉸尾は帯の先端に取り付けます(68ページの写真参照)。

製品
丸鞘 巡方 鉸尾



孔の拡大写真



【石帯 鉸尾について】

6.8×4.4cmの黒色の石材を用いて作られた蛇尾です。表面は研磨され、裏面は石挽き鋸で切断、粗削りされたのち、ベルトに取り付けるための2孔1対の穿孔が3箇所を開けられています。

石帯とは、巡方、丸鞘を複数貼り付けたベルトの端部に付けられた装飾品です。6号竪穴の床面から1点のみ出土しました。

山梨県内では金属製品を含め30個以上の腰帯具が見つっていますが、石製品としては16点目、鉸尾としては笛吹市大原遺跡(玉井郷長が居住したらしい集落遺跡)に続き、2例目の発見となります。

奈良時代に金銅製が用いられ、大きさによって官位を示したようですが、平安時代になると石製が主となり、平安京の貴族邸宅内の工房で作られたことがわかっています。

